

## 津波防災講座の実施報告

## ◆ねらい

1. 津波に関する科学的な知識の習得や、津波防災の取組案の検討などを通じ、津波防災への関心を喚起する。
2. 子どもの立場から、学校や地域における津波防災の取組みや地区防災計画の取組みに貢献するためのきっかけをつくる。
3. 津波防災を学ぶ子どもの姿勢から、地区住民（大人）が刺激を受け、地区防災計画の取組みを促進する機会とする。

## ◆講座実施の前提

内容：津波の科学実験を取り入れる

対象：小学生（低学年・高学年）、中学生

回数：各校 1 回（95～110 分間）

## ◆各校での講座実施の流れ

1. 事前打ち合わせ
2. 講座実施（講師派遣）
3. 教員向けアンケート配布・回収

## ◆講座実施概要

対象校	(1) 田辺市立 田辺第二小学校	(2) 広島市立 宇品小学校	(3) 松山市立 中島中学校
対象	1 年生（低学年）60 名弱	5 年生（高学年）260 名弱	1～3 年生（中学）40 名弱
目的	<ul style="list-style-type: none"> <li>・津波のリスクを知る。</li> <li>・避難経路・場所の把握</li> <li>・防災について自分ができることを考える。</li> <li>・学校での津波防災教育の継続性を考慮する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・津波のリスクを知る。</li> <li>・避難所での自分の行動を考える。</li> <li>・学校での津波防災教育の継続性を考慮する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・津波のメカニズムを知る。</li> <li>・中島地区の津波リスクを理解する。</li> </ul>
講座の内容	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 津波に関する知識を学ぶ</li> <li>2. 備え、避難行動について考える（スタンプラリー）</li> <li>3. 津波に対する対策を考える</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 津波に関する知識を学ぶ</li> <li>2. 発災後を時系列で区切り、それぞれの時期に自分がとる行動を考える（クイズ）</li> <li>3. 津波に対する対策を考える</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 最近の災害について学ぶ</li> <li>2. 津波に土砂災害に関する知識を身につける</li> <li>3. 居住地区での避難行動を考える（津波避難シミュレーション）</li> </ol>
実施体制	講師＋教員等 6 名	講師＋教員等 9 名	講師＋教員等 6 名
他授業との関連	前学として自宅周辺地区への避難経路書き込みを保護者とともに実施	今回の講座を含め、1 年間の総合学習の成果として家族防災ハンドブック作成予定	なし
地域と講座の関わり	減災ポケットを家庭に持ち帰り、生徒から親へ講座の内容を伝える。	グループワークにてまとめた意見を支援地区代表者へ渡す。	

◆教員等対象アンケート結果より一部抜粋

対象校	(1) 田辺市立 田辺第二小学校	(2) 広島市立 宇品小学校	(3) 松山市立 中島中学校
目的を達成できたかとその理由	<p>できた・ほぼできた：10割 →子どもの立場で、地震津波が起こった時に、どのようなことができるかを考えることができていた。 →具体的な避難経路や避難場所の把握に至らなかった。</p>	<p>できた・ほぼできた：6割 →児童が取り組みやすいゲームを取り入れたワークシートやシールがあった。 →視覚的にわかりやすかったが内容が子どもにとって少し難しかった。</p>	<p>できた・ほぼできた：10割 →生徒が自分事として捉えていた。 →自分の住んでいる地域で考えることができた。 →中学生にとっては難しい内容もあり、十分に理解できていない生徒もいた。</p>
最もよかった講座の内容とその理由	<ul style="list-style-type: none"> <li>●避難行動や避難所での行動 →児童が児童なりの考えを持って行動できた</li> <li>●津波のリスクを知る →子どもたちの印象に強く残っていたため</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●避難行動や避難所での行動 →具体的な場面を想定して、自分ならどうするかを考えることができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●津波の避難経路 →地区ごとのシミュレーション動画により自分ごととして捉えることができた。</li> </ul>
保護者・地域との連携について	<ul style="list-style-type: none"> <li>●津波のリスクが、子どもたちに本当に伝わっていたか疑問が残る。</li> <li>●家庭や地域を含めた防災教育を行うことも大切</li> <li>●学校融合推進協議会等を活用して、避難訓練や防災マップづくり等、地域と連携して取り組んでいきたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●今回の講座でのお話を今後の総合の学習に生かして行きたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●地域の防災訓練に参加したり教師がいざという時に連携できる体制を構築しておく。</li> </ul>
運営面について	<ul style="list-style-type: none"> <li>●小学校は担任以外の人員はほとんどいないため、基本的には担任の参加だけで成り立つ講座がよいと思った。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>●大学生スタッフを配置していただいていたので、どの班も困り感なく活動に参加できていた。</li> </ul>

◆講座の成果と課題

対象校	(1) 低学年 田辺市立田辺第二小学校	(2) 高学年 広島市立宇品小学校	(3) 中学生 松山市立中島中学校
ねらいの 設定につ いて	教師対象アンケートより家庭や地域と連携した、避難訓練や防災マップづくり等、具体的な活動をしたいと考えていることが見える。 →今回のねらいとの大きなズレは見られない。		教師対象アンケートより、地域と連携した（防災訓練に参加）等の具体的な取り組み及び教師間の体制の構築等を考えていることが見られる。 →今回の狙いとの大きなズレは見られない。
ねらいに 対する 成果	津波に関する知識の習得、関心を喚起することができた。 保護者（大人）の防災意識を刺激する素材・方法を学ぶ機会とできた。	津波に関する知識の習得することができた。 地区防災計画に取り組む地区住民（大人）へ刺激を与える機会とできた。	地域の災害に関する知識を習得し、生徒自身の居住地域での避難行動について考える機会とできた。 生徒が家族との話し合いや地域との連携の大切さを意識する機会とできた。
課題	言語習得が不十分なため、知識の定着を測定することが難しく、また、児童が知識を他者へ広めることが困難なため、地域における防災の取組や地域防災計画の取組みへの参画が難しい。	児童の地域での防災の担い手であるという自覚を育てることが課題	100分間程度の講座1回という時間の設定のなかで、地域における津波防災の取り組みや地区防災計画の取組に貢献する内容を組み込むことは困難である。
今後の 講座内 容の提 案	保護者と受講する講座にすることで、児童の講座内容の理解をより確かなものとし、児童を保護する立場にある保護者自身の防災意識向上を図ることができる。	保護者へ学んだことを伝える時間を入れることで生徒の家族の防災意識向上を図ることができる。低学年へ学んだことを伝える時間を入れることで高学年としての意識を育て、学校全体の防災力向上を図ることができる。	100分間程度の講座を複数回実施もしくは、防災を担う地域の人が講座を実施することで生徒自身の意識（地域との連携の大切さ、高齢者への避難支援）を行動に移すきっかけを作ることができ、また地区防災計画への参画を促進することができる。

◆【参考】生徒感想（講座で学んだこと）

対象校	(1) 田辺市立 田辺第二小学校	(2) 広島市立 宇品小学校	(3) 松山市立 中島中学校
内容の 理解	津波に関する知識 (波の違い、強さ、 津波の伝播)		地域の危険箇所（津波・土砂） と避難場所
事前の 備え	家族との話し合い 災害時持出品	<ul style="list-style-type: none"> <li>●自分でできること 備蓄品、避難場所の確認、 災害時持出品</li> <li>●家族・友達とできること 避難場所の確認、備蓄品、 家具の転倒防止、日頃の関 係性</li> <li>●地域・国にしてほしいこと (事前) 災害対策構造物 の建設、備蓄品の生産・配 備、津波防災の啓発 (発災時・後) 支援物資の 提供、被災地支援、情報提 供</li> </ul>	家族との話し合い 防災意識向上
災害時 の行動			高齢者の避難支援 命を守る正しい行動 落ち着いた行動 適切な避難判断
原文 (一部 紹介)	<ul style="list-style-type: none"> <li>●津波は地震が海 に起こったら来るんだ なってわかりました。</li> <li>●津波の逃げ方や 津波の速さがわかりま した。ママにも教えて おきます。</li> </ul> ※原文は全てひらが な	<ul style="list-style-type: none"> <li>●災害に備えていつでも使え るように用意しておく。(いつ も買えそうな食べものなど)</li> <li>●協力をして、災害が起きた 時に危なくなる所の情報を集 めて地図に書き込んでおく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●今回の津波防災講座で、津波 が来た時は地域の人との連携が大 切だと思いました。津波がきた時に どのような行動をとったらいいか、きち んと理解することができました。</li> <li>●意外と長師は安全だったけど、お 年寄りとかもいるので、早めに避難 して手伝ったりして、けがなく安全に 避難したいです。知識も深まった し、とても良かったです。</li> </ul>

## 津波防災講座の実施報告（詳細）

## I.和歌山県田辺市立田辺第二小学校

## A.実施報告

## ○概要

日時：2018年11月16日（金）

講座対象：1年生（1組24名 2組25名）計49名

授業参観者：保護者2名・地区1名（地区防災支援地区担当者）

講師：東北大学災害科学国際研究所 地震津波リスク評価寄附研究部門

保田真理 プロジェクト講師

（講師補助：国土防災技術(株) 2名）

学校関係者：校長、教頭、教員（クラス担任）2名、教育主事2名

## ○講座の流れ

時間	担当	学習内容	教材
9:25 ~10:05	保田講師	<ul style="list-style-type: none"> <li>・津波発生のメカニズムを知る</li> <li>・津波と普通の波の違いを知る</li> <li>・地域の避難場所確認する</li> <li>・津波の知識を家族に広める方法を知る</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・動画</li> <li>・動画</li> <li>・空中写真/ピクトグラム</li> <li>・減災ポケット(備え等が記載されたハンカチ)</li> </ul>
10:15 ~11:15	保田講師	・津波への自分の備えを考える	・スタンプラリー
	教頭・教員 教育主事 国土防災技術	<ul style="list-style-type: none"> <li>・津波が起きたときの自分の避難行動を考える</li> <li>・自分でできることを考える</li> <li>・家族でできることを考える</li> <li>・地域の人や国にしてほしいことを考える</li> </ul>	・ワークシート

## ○児童の感想

- ・津波は地震が海に起こったら来るんだなってわかりました。
- ・津波の逃げ方や津波の速さがわかりました。ママにも教えておきます。
- ・もし地震が起きて津波が来たら早く近くのあゆみ保育所に逃げるようにします。



○津波防災講座の様子



保田講師による講義（津波発生のメカニズム）



津波と普通の波の違いを答える児童



保田講師によるスタンプラリーのルール解説



上 2 枚：スタンプをおす児童

下 1 枚：押したスタンプを共有する児童



講師とともにグループワーク

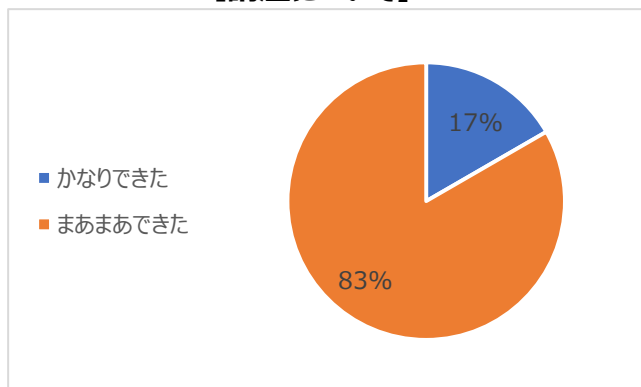


スタンプラリーとグループワークの結果を発表する児童

## B. アンケート集計結果

### 【講座について】

#### 1. 講座の達成度



図

理由	
講座の達成度	<b>【回答：かなりできた】</b> ・地震や津波が発生したときになにをしなければならないかを知り、考えることができていた。 ・子どもの立場で、地震津波が起こった時に、どのようなことができるか考えることができていた。 ・個人差はあるが、概ね児童への津波防災講座の関心を高めることができた。 ・講座内容を理解しグループ活動へも参加できていた。
	<b>【回答：まあまあできた】</b> ・津波リスクの理解にはつながったが、具体的な避難経路や避難場所の把握に至らなかった。 ・津波のリスクについては理解できていたが、具体的な避難経路は、あまり理解できていない。

#### 2. も

っとも良かったと思う講座内容

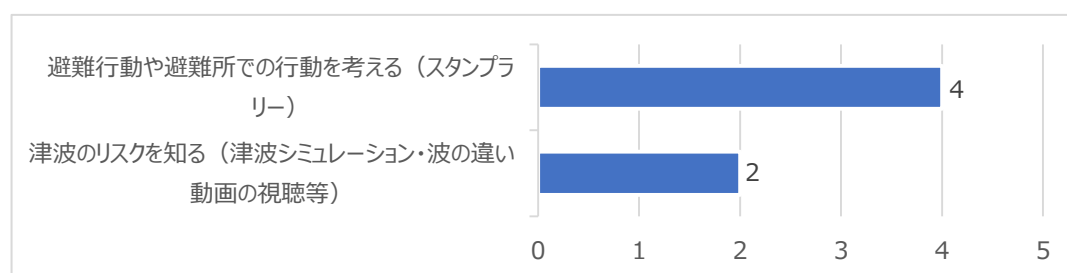


図2 もっとも良かったと思う講座内容

理由
<b>【回答：避難行動や避難所での行動を考える】</b> ・児童が児童なりの考えを持って行動できた ・児童が一番自分なりに考え、選択している場面であったから ・子どもたちが自主的に考えることができた。

・児童が積極的に動いていた

**【回答：津波のリスクを知る】**

- ・子どもたちの感想で、この内容についてのことが一番多かったから。
- ・子どもたちの印象に強く残っていたため

3. 講座に対する要望（自由記述）

- ・ 用意した地図をもうちょっと活用してもらえればよかった
- ・ 各家庭で準備いただいた地図をもう少し活用して欲しかったです。
- ・ 学校への連絡や依頼等、できるだけ早くいただけると学校も対応しやすくなると思いました。
- ・ 講師先生の話は大変わかりやすいので、映像に一工夫あればもっと良いと思った。

4. 本講座のような津波防災講座を他の学年にも受けさせたいか

回答	回答数
思う	6
思わない	0

**【今後の展開について】**

1. 津波防災講座をご自身で実施する場合（※回答者：学年主任、各学年担任）

1.1. 取り入れたい講座内容（複数回答可）

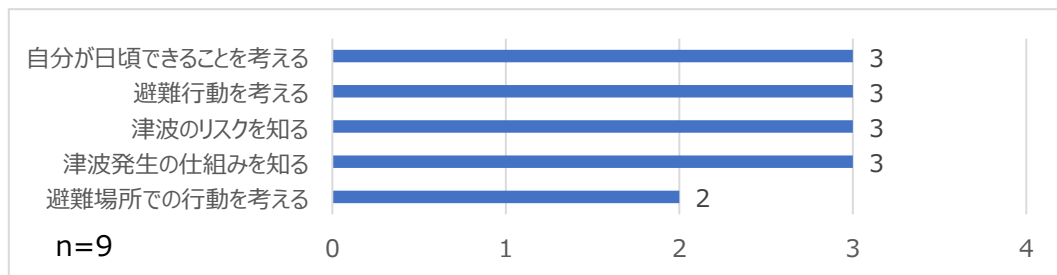


図3 取り入れたい講座

1.2. 取り入れたい有効なツール

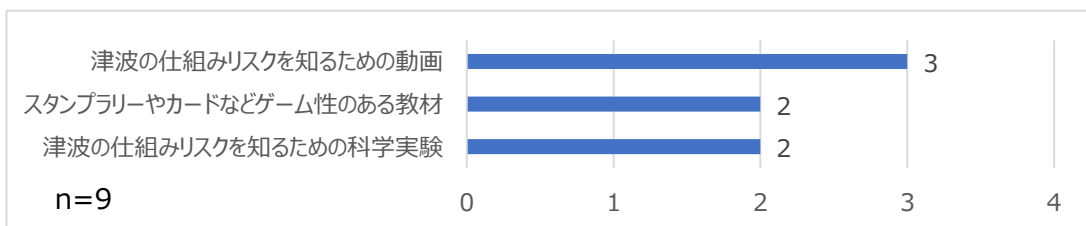




図4 取り入れたい有効なツール

1.3.

1.4. 具体的な実施場面

学年	内容
1.5. 実施する際 の年 の年	<p>・本校では毎年6月を防災月間として、<u>参観日に防災学習を行っている</u>のでその<u>ときに実施</u>したい。</p> <p>・毎年、<u>防災学習を参観日等で実施</u>しているので、その際に実施したいと思いました。</p> <p>・避難訓練・防災教育など</p>
際 の年	社会・自然災害から人々を守る
の年	理科・大地のつくりと変化

課  
題

- ・ 教材購入費用が確保できない（1）
- ・ 津波防災に関する知識等に自信がない（1）
- ・ 通常の授業・行事の準備で忙しい（1）
- ・ 使える教材を知らない（1）

2. 地域全体で津波に備えるために学校が取り組むこと（※回答者：校長、教頭、教育主事）

- ・ これまでも町内会との連携を図りながら津波防災訓練等に取り組んできたが、今回の津波防災講座の内容を保護者や地域の方々にも説明していただけるとよいと思います。
- ・ まずは学校内で、子どもたちに防災教育を行うことが重要だと思われる。田辺市では各学期に一回防災教育指導案を作成して、市内全校で取り組んでいる。その上で、今年度から始まった学校融合推進協議会等を活用して、避難訓練や防災マップづくり等、地域と連携して取り組んでいきたい。
- ・ 学校外（休日や登下校時等）で発生したときに、児童が単独でも判断と行動ができるようにするための取り組み

3. 講座全体に対する感想・質問等

- ・ 1年生を対象とした津波防災講座でしたが、映像を使った説明であったため、理解しやすかったと思います。ただ津波のリスクというのが、子ども達に本当に伝わっていたかは疑問が残ります。スタンプラリーを通して、子ども等なりに、自分ができる行動を考える機会であったと思います。
- ・ 今回、小学1年生対象に行った場合と、高学年で行った場合、中学生で行った場合など、スタ

ンプの選択でデータ分析をした場合、何らかの違いがあるのかが気になりました。**1年生にとって選択が難しかった部分もあったと思うので、保護者と一緒にスタンプラリーに参加するなどして、家庭や地域を含めた防災教育を行うことも大切である**と思いました。

- ・ 南海トラフ地震が心配されている当地方では、子供達への防災教育は大変重要です。今回このような講座を実施頂いたことはとてもありがたかったと思います。子供達も、普段の先生ではなく、外部の方にお話をしていただいたことで、印象に残った部分もたくさんあると思います。**防災教育は保護者への啓発も重要ですので参観日等に設定して、保護者にも参加してもらう形態にしても効果が上がる**と思います。
- ・ スタンプラリーでは、なかなかスタンプを選べなかった子もいたのですが、全体としては意欲的に取り組めていたので良かったと思います。子供たちは、津波とはどのようなものなのかが、今までわかっていなかったのですが、今回映像を通して理解を深められたように思いました。子どもたちにとって良い機会になったと思います。ありがとうございました。
- ・ 講師先生には、1年生という発達段階に応じた講座の内容を考えていただきありがとうございました。今回の津波防災講座で学んだことを、今後の学校の防災教育に活かしていきたいと思えます。ありがとうございました。
- ・ 講師先生に熱心に指導いただきありがとうございました。
- ・ このような機会を与えていただき、大変勉強になりました。ありがとうございました。

### 【運営について】

- ・ 小学校は担任以外的人员はほとんどいないため、基本的には担任の参加だけで成り立つ講座がよいと思いました。
- ・ 学校によっては、担任以外的人员は維持が難しい状況がある
- ・ 休憩時間のとり方や時間配分など、事前にもっと細かく打合せしておいた方が学校現場は困らないと思います。
- ・ 小学校低学年の場合は、活動する時間を長めに配分すると良いと思う。

### 【回答者情報】

#### ■性別

・男性	4名
・女性	2名

#### ■教師歴

・10年未満	1名
--------	----

#### ■津波防災講座の受講経験

・ある	0名
・なし	6名

#### ■津波防災講座の実施経験

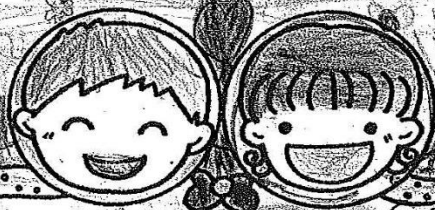
・ある	1名
・なし	5名

- ・10年～20年未満 2名
- ・20年～30年未満 1名
- ・30年以上 2名

C. 児童・生徒の感想（原文、抜粋）



ぼうさいがくしゅう  
きょうは、ぼうさいレ  
っしゅうをおしえてく  
れてありがとうございます  
しました。つなみにき  
をつけます。ひなんば  
しよをきめておくこと  
がだいじだとわかりました。





## Ⅱ.広島県広島市立宇品小学校

### A.実施報告

#### ○概要

日時： 2018年12月11日(火)

講座対象： 5年(1-8組 各組30~35名)計260名

授業参観者： 保護者2名 地区3名

講師： 東北大学災害科学国際研究所 保田真理 プロジェクト講師  
(講師補助：国土防災技術(株) 1名)

学校関係者： 教頭、教員(クラス担任)8名

#### ○講座の流れ

時間	担当	学習内容	教材
14:10 ~15:55	保田講師	・津波発生のメカニズムを知る ・津波と普通の波の違いを知る ・地域の避難場所確認する ・津波の知識を家族に広める方法を知る	・動画 ・動画 ・空中写真/ピクトグラム ・減災ポケット(備え等が記載された用紙)
15:00 ~15:45		・発災前後を時系列で区切り、それぞれの時期に自分がとる行動を考えさせる。 ・自分の備え、避難行動の特徴を知る。	・防災減災クイズ ・ふり返しシート&津波シール(内閣府作成)
		・自分でできることを考える ・家族でできることを考える ・地域の人や国にしてほしいことを考える	・ワークシート

#### ○児童の意見

- ・災害に備えていつでも使えるように用意しておく。(いつも買えそうな食べものなど)
- ・協力をして、災害が起きた時に危なくなる所の情報を集めて地図に書き込んでおく。
- ・家庭でも訓練を増やす。
- ・災害の時にどんなものがよいかということをパンフレットやリーフレットにまとめたり、呼びかけをしたりしてほしいです。

○津波防災講座の様子



保田講師による講義（津波発生のメカニズム）



津波の特徴を答える児童



上下2枚：クイズに回答する児童



全員でクイズの回答を共有



左・中央：グループワーク



グループワークの結果をみんなの前で発表

## B. アンケート集計結果

### 【講座について】

#### 1. 講座の達成度

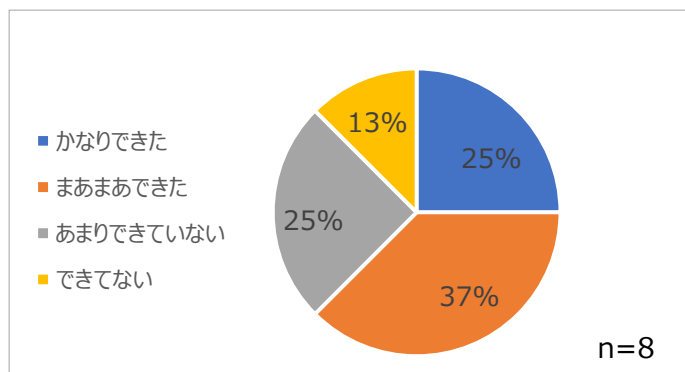


図1 講座の達成度

理由	
2. も	【回答：かなりできた】 ・児童が取り組みやすい <b>ゲームを取り入れたワークシートやシール</b> があったので ・ <b>ゲームを取り入れ</b> たりし映像を見せたりすることで子どもにイメージが持たせられたから
つ	
と	
も	【回答：まあまあできた】 ・画像等があり、 <b>視覚的にわかりやす</b> かったが内容が子どもにとって少し難しかったように思う。
良	
か	【回答：あまりできていない】 ・声が聞き取りにくかった。映像や内容は <b>難しかった</b> 。 ・少し <b>むずかしかった</b> ようです。
つ	
た	
と	

思う講座内容

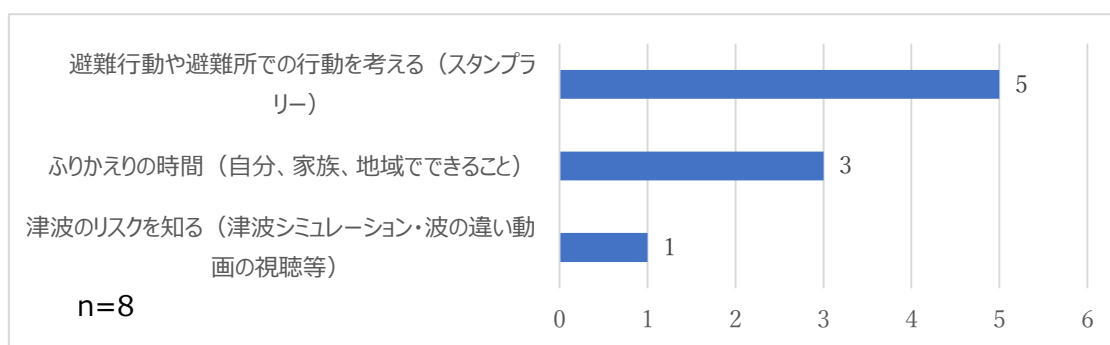


図2 もっとも良かったと思う講座内容

理由
【回答：避難行動や避難所での行動を考える】 ・具体的な場面を想定して、自分ならどうするかを考えることができた。 ・生活と関わりながら考えることができた

・子どもたちが意欲的に取り組み、考えることができたため
ふりかえりの時間
・自分の考えをグループの中で交流しあい発表できた ・主体的に活動ができていたから
津波のリスクを知る
色分けによって、危険なところがわかりやすく、また、当初危険なところ以外の場所についても危険なことがわかった。

### 3. 講座に対する要望（自由記述）

- ・ クイズで選択結果の発表の際、「～の力」の表示と一緒に、問題と選択肢の内容を表示してほしい
- ・ クイズの答えは、問題とともに出した方が子どもにわかりやすかったように思う。
- ・ クイズの答えの時間問題があったらよかった

### 4. 本講座のような津波防災講座を他の学年にも受けさせたいか

回答	回答数	理由
思う	1	
思わない	6	・5年生でよい ・決まった学年で学習するほうがよい、ある程度学習が深まった学年がよい

## 【今後の展開について】

### 1. 津波防災講座をご自身で実施する場合（※回答者：学年主任、各学年担任）

#### 1.1. 取り入れたい講座内容（複数回答可）

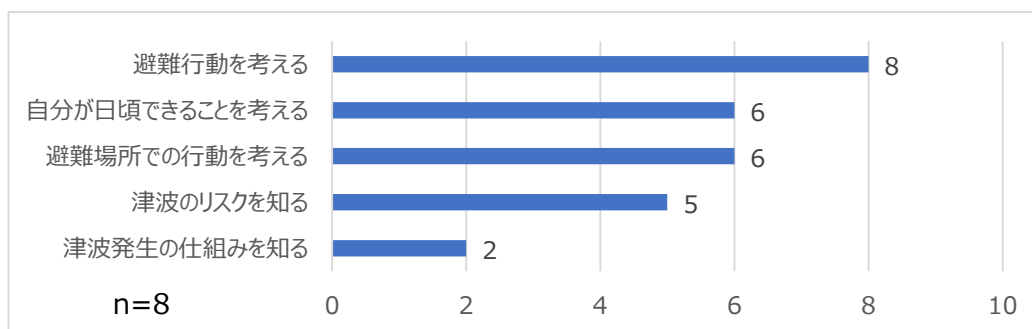


図3 取り入れたい講座内容

## 1.2. 取り入れたい有効なツール

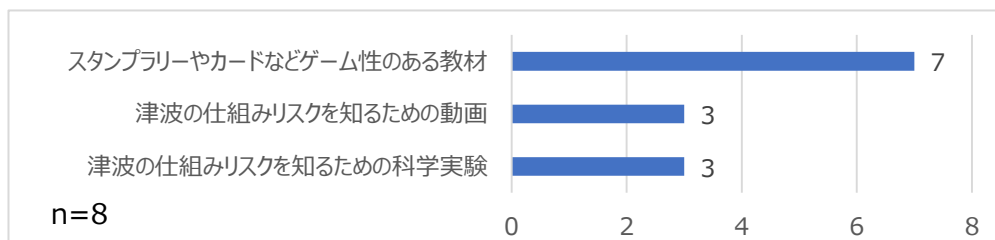


図4 取り入れたい有効なツール

## 1.3. 具体的な実施場面

学年	内容
1.4. 5年	総合的な学習の時間(4)

施

する際の課題

- ・ 教材購入費用が確保できない（4）
- ・ 津波防災に関する知識等に自信がない（4）
- ・ 授業時間の確保ができない（3）
- ・ 使える教材を知らない（3）
- ・ 通常の授業・行事の準備で忙しい（2）

## 2. 講座全体に対する感想・質問等

- ・ 今回の講座でのお話を今後の総合の学習に生かして行きたいと思います。
- ・ 事前の検討会 etc. 準備が必要。どんな内容が漠然としかわからないまま「授業」の時間になるのはもったいない。
- ・ 話を聞く活動の時間が少し長かった

### 【回答者情報】（※無回答 4名）

#### ■ 性別

- ・ 男性 0名
- ・ 女性 4名

#### ■ 津波防災講座の受講経験

- ・ ある 0名
- ・ なし 4名

#### ■ 教師歴

- ・ 10年～20年未満 1名
- ・ 20年～30年未満 3名

#### ■ 津波防災講座の実施経験

- ・ ある 0名
- ・ なし 4名



C.児童・生徒の感想（原文、抜粋）

学校名 宇品小

減災学習 グループのまとめ

2組7班

授業とゲームをふりかえりながら、グループで出た意見を書きましょう。

1. 災害にそなえて、自分ひとりでもできる、やっておこうと思うことは何でしょう。

- ・ひなん道具の点検。
- ・たおれる物がなにかを確かめる。

2. ひとりではできないけど、家族や友達と協力してやれる、やっておきたいと思うことは何でしょう。

- ・ひなん訓練
- ・防災バック
- ・ひなん場所を決めておく

3. 地域の大人や日本の国にやってもらいたいと思うことは何でしょう。

- ・すぐ情報を教えてほしい。(知らせる)

学校名 宇品小

減災学習 グループのまとめ

3組 2班

授業とゲームをふりかえりながら、グループで出た意見を書きましょう。

1. 災害にそなえて、自分ひとりでもできる、やっておこうと思うことは何でしょう。

・ひなん場所の石窪にん・防災グッズを集める

2. ひとりではできないけど、家族や友達と協力してやれる、やっておきたいと思うことは何でしょう。

・災害が起こったら全員いるか石窪にんする。  
・ひなん順練する。

3. 地域の大人や日本の国にやってもらいたいと思うことは何でしょう。

・家がこわれた人の家を建て直す。  
・ボランティア活動をする(ボランティアになる)。  
・ほし金する。

### Ⅲ.愛媛県松山市立中島中学校

#### A.実施報告

##### ○概要

日時： 2018年12月17日(月) 13:30~15:20

講座対象： 全校生徒(1年生/14名、2年生/11名、3年生/11名)計36名

講師：愛媛大学 防災情報研究センター 二神透副センター長

(講師補助：愛媛大学二神研究室学生5名、国土防災技術(株)1名)

学校関係者補助： 校長、教頭、教員 計9名

オブザーバー： 松山市役所 危機管理課/地域防災課 計2名

##### ○講座の流れ

時間	担当	学習内容	教材
13:30 ~14:20	二神准副センター長	・最近の災害について学ぶ	・解説スライド&動画
	二神准副センター長 学生 国土防災技術(株)	・浸水エリアや浸水深を確認する ・津波のメカニズムを学ぶ ・自宅から避難場所への経路を知る。 ・居住地域の津波の避難行動を考える。	・立体地図 ・動画 ・白地図/ハザードマップ ・津波避難シミュレーション
14:30 ~15:20	二神准副センター長 学生	・土砂災害について知る ・気象情報と避難情報を知る。 ・土砂災害危険箇所を知る。 ・土砂災害が起きた時の、避難行動を考える。 ・事後アンケートの記入	・動画 ・解説スライド ・ハザードマップ/白地図 ・津波避難シミュレーション/白地図

##### ○生徒の感想(一部抜粋)

- ・ 今回の講座で地域の人との連携が必要だと分かったので、津波が到達するまでの2時間で避難の難しいお年寄りの人と一緒に避難をするようにしたいです。(1年生)
- ・ 普段の生活では起こらない津波やがけ崩れなどをシミュレーションにしてみせていただいたので、とても分かりやすかったです。(2年生)
- ・ 今日得た知識を生かし、災害時、自分の命をしっかりと守れるよう行動したいです。(2年生)
- ・ 私は、避難場所がはっきりと決まっていなかったけれど、今回の講演を通して、土石流や津波の起こる場所を知り、避難場所をしっかりと決めることができました。家族と話し合っ、共通の所に行けるように、準備したいです。(3年生)

○津波防災講座の様子



二神准副センター長による講義（最近の災害）



愛媛大学学生による挨拶



津波シミュレーションの視聴



愛媛大学学生による講義（土砂災害）



白地図を使った学習



中学生からの挨拶



会場の鳥瞰図

## B. アンケート集計結果

### 【講座について】

#### 1. 講座の達成度

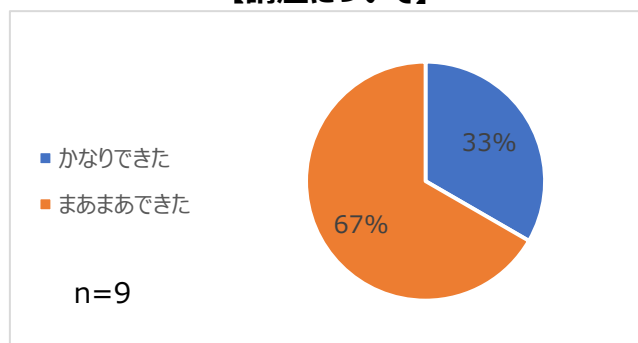


図1 講座の達成度

理由
<b>【回答：かなりできた】</b> ・各地区に分かれて、丁寧に説明してくれたから。 ・子供達が説明を一方向的に聞く講義ではなく、自分達の地域に当てはめてシミュレーション体験をさせてもらった点で、ねらいに達成できていると思う。 ・生徒が自分事として捉えていた。
<b>【回答：まあまあできた】</b> ・立体地図を見ながら津波等のリスクについて具体的に話し合い、意識を高めることができました。 ・自分の住んでいる地域で考えることができていたから。 ・資料等を見たから。 ・中学生にとっては難しい内容もあり、十分に理解できない生徒もいたのではないかと思います。

#### 2. もっとも良かったと思う講座内容

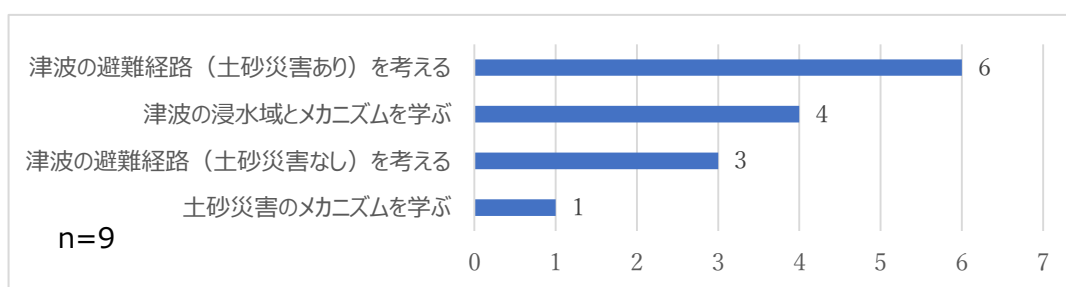


図2 もっとも良かったと思う講座内容

理由
<b>【回答：津波の避難経路（土砂災害なし）を考える】</b> ・地区ごとのシミュレーション動画を見せていただいたので、より自分事として捉えられたのではないかと思います。 ・動画やシミュレーション体験は興味をもって参加できるツールであるから。



3. 講座  
に  
対  
す  
る  
要  
望  
由  
由  
記  
述
- 【回答：津波の浸水域とメカニズムを学ぶ】**  
 ・立体地図や動画が大変わかりやすかった。自分の住む町に、このようなリスクがあるのだと、よく理解できたと思う。  
 ・動画やシミュレーション体験は興味をもって参加できるツールであるから。  
 ・今回限りでなく、来年度以降、啓発資料として活用が期待できる。
- 【回答：津波の避難経路（土砂災害あり）を考える】**  
 ・地区ごとのシミュレーション動画を見せていただいたので、より自分事として捉えられたのではないかと思います。  
 ・動画やシミュレーション体験は興味をもって参加できるツールであるから。  
 （・津波だけでなく、大雨の際の土砂災害が起こった場合の経路も確認できたから。  
 ・今ある道が通れなくなるかもしれないという発想が薄いと思うので。  
 ・イメージしやすかったから。
- 【回答：土砂災害のメカニズムを学ぶ】**  
 ・動画やシミュレーション体験は興味をもって参加できるツールであるから。

- )
- ・防災マップ等を見て、講座前に危険域の色付けをしておく、講座の時間がより有効に使えたのではないかと思います。
  - ・話し合いの際、何を通じて何を考えさせたいかという発問が明確でなく、十分深まらなかったように思う。
  - ・実際の写真を利用するなどすればよかった。

### 【今後の展開について】

1. 津波防災講座をご自身で実施する場合（※回答者：学年主任、各学年担任）
  - 1.1. 取り入れたい講座内容（複数回答可）

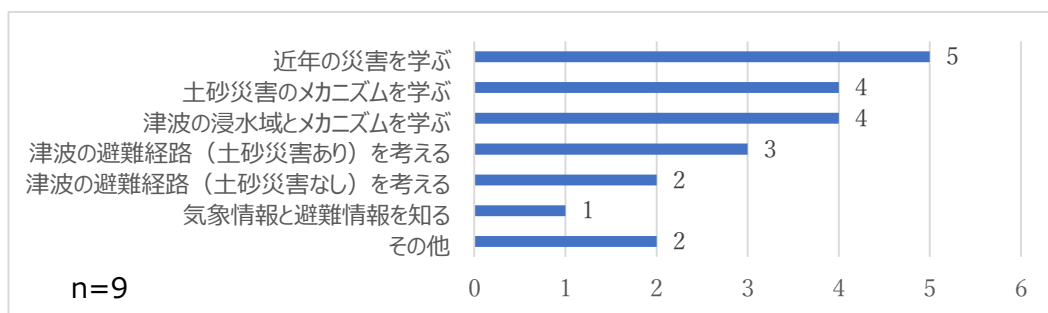


図3 取り入れたい講座内容

その他講座内容としたい事項

- ・「近年の災害を学ぶ」と近くなりますが、過去の災害があったときに助かったエピソード等を紹介しておきたい。
- ・避難時の防災バックに何を入れるか考える（家庭科）。障害物や課題を設定した、ロボットコンテストを行う（技術）。

## 1.2. 取り入れたい有効なツール

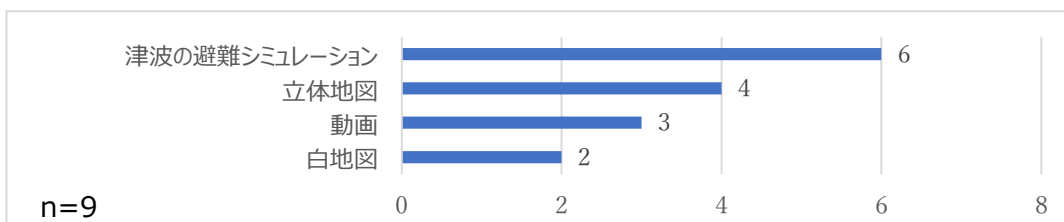


図4 取り入れたい有効なツール

## 1.3. 具体的な実施場面

学年	内容
全学年	総合的な学習（防災学習）、自然災害の学習
3年	総合的な学習の時間
2年	住居の分野で住まい方について考える、エネルギー変換、学級活動
1年	理科、道徳、総合・地域調べ学習と一緒に

## 1.4. 実施する際の課題

- ・ 教材購入費用が確保できない（3）
  - ・ 通常の授業・行事の準備で忙しい（3）
  - ・ 津波防災に関する知識等に自信がない（2）
  - ・ 使える教材を知らない（2）
  - ・ 授業時間の確保ができない（2）
  - ・
2. 地域全体で津波に備えるために学校が取り組むこと（※回答者：校長、教頭、教育主事）
- ・ 地域の防災訓練に参加したり、そのための会合にも教員が顔を出していざという時に連携できる体制を構築しておく。
  - ・ 立体地図は、常設（多目的スペース）して、保護者や地域の方が来校した際に活用できるようにしたい。
3. 講座全体に対する感想・質問等

- ・ 立体地図（クロマデブス）と専用メガネをいただくことができ、多目的スペースに常掲させてもらっている。生徒だけでなく、保護者などの来訪者にも防災意識を高めてもらうことにつなげることができました。いろいろとお世話になりました。
- ・ メカニズムやシミュレーションを通して、普段はなかなか得られない専門的な知識を得るよい機会になったのではないかと思います。ありがとうございました。
- ・ 自分では指導することができない専門的な内容が詰まった講座で、生徒だけでなく教員も勉強になりました。シミュレーションなどもあり、自分の地域で考えることができたのが良かったです。ありがとうございました。
- ・ 学校単独では、内容、準備等なかなか難しい面があり、今回のようにコーディネートいただき、大学関係者による講座を開催していただいたことが有意義でした。
- ・ 子どもの思考の過程を中心に、講座を組み立てるべきである。

### 【運営について】

- ・ 大学生スタッフを配置していただいていたので、どの班も困り感なく活動に参加できていた。
- ・ 大学生の方に、支援の内容について、より打ち合わせをしておくべき。
- ・ 先にこちらでできる内容を終わらせておき、発展的な内容からしていただければスムーズに進んだと思います。

### 【回答者情報】

#### ■性別

・男性	6名
・女性	3名

#### ■津波防災講座の受講経験

・ある	1名
・なし	8名

#### ■教師歴

・10年未満	5名
・10年～20年未満	2名
・20年～30年未満	2名

#### ■津波防災講座の実施経験

・ある	1名
・なし	7名
(無回答1名)	

### C.児童・生徒の感想（原文、抜粋）

これから起こる南海トラフのための対策もできずし、自分たちのみんな場所を改めて見直すことができてました。もし、地震が起こるときは今日の授業を休かしてみんなしたいです。

私は、避難場所がほ、きりと決まっていたんだけど、今回の講演を通して、土石流や津波の起こる場所を知り、避難場所をしっかりと決めることができました。家族と話し合っ、共通の所に行けるように、準備しています。

今回の津波防災講座で、津波が来た時は地域のひととの連携が大切だ"と思いました。津波が来た時にどのような行動をと、たらいいかきちんと理解することができました。